

わが社の「環境力」これまでとこれから

本杉 彰 (もとすぎ あきら/有限会社本杉工機 取締役)

テーマとしての環境力

この度は、環境力大賞を頂きました事、審査員の方々、ご紹介を頂いた三共精機株式会社の石川社長様。そして、弊社とつながりを持って頂いている全ての皆様に、深く御礼申し上げます。

時の流れは速く、環境力とは何を指しているのだろうか？と、漠然とした不安に駆られながら、判らないから面白いと、12の設問に向き合ったことを思い出します。

特に興味深かった設問は『事業を大きくしすぎない勇気』と『人知の及ばない大なるものへの畏敬の念』です。前者の『事業を大きくしすぎない勇気』とは、事業を営んでいる以上、会社の発展を目指すのは当然の責務として考えた上で、大きくしすぎないためにどのような工夫をし、抑制しているのか？と捉えました。この問題は、一見、矛盾するようにも思えますが、非常に合理的。物事には必ず上限（有限）があり、自分と会社の足るを知ることが会社を強固にします。正に老子の言葉です。個人的には、京都禅寺の竜安寺にある我唯足知が好きなのですが、せっかくなので、老子道德経の33章全文を。

知人者智、自知者明。勝人者有力、自勝者強。知足者富、強行者有志。不失其所者久。死而不亡者壽。

当然、足るを知れば、必然と会社経営にも反映され、計画的に運用するために無駄を省き、同時に環境負荷も低減します。

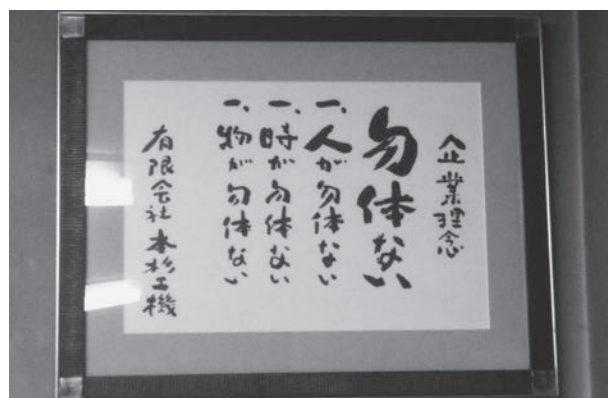
弊社の場合は、電動機のメンテナンス業として、各地域の同業他社様と連携しあう事で、時間的な無駄を省き、コストを低減する事が最適なサービスと考え実践しています。

次に、『人知の及ばない大なるものへの畏敬の念』。大なる自然と対峙した時、どの様に恐れ、どの様に敬意を抱けるか。会社として、経営者として正しく自然環境と向き合っているか？突きつけられる設問でした。

何故なら『この問題の答えはまだ見つからない』が、私の直感的な答えだったからです。

環境力を推し量るための直接的な問題。結果、産業活動による環境破壊の脅威に晒されている自然の把握とその事象について、会社としてどの様な取り組みを行っているのかを暫定的な答えとして回答させて頂きました。

もう一つの答えとして、弊社の企業理念である『勿体ない』～人が勿体ない～時が勿体ない～物が勿体ない。MOTTAINAI（モッタイナイ）はケニア出身でノーベル平和賞を受賞された故ワンガリ・マータイ女史が2005年に国連で発表した言葉ですが、これには3R（Reduce・Reuse・Recycle）にR（Respect）が含まれていると言われています。ごみの発生抑制、再使用、物の再資源化、そして地球資源（地球環境）に対する尊敬の気持ち。彼女は、1977年からアフリカの地で地球環境への尊敬と感謝の念を込めたグリーンベルト運動等を通じ、常にこのことを発信し続けました。7本の木の植林活動から始まったこの運動は、ただ環境保護（保全）を求めるだけでは無く、貧困に喘ぐ女性達が植林活動に参加する事で、生活と地位の向上も同時に確立させました。これらの運動から学び、私自身はもとより弊社従業員一同の信念として掲げ、継続・継承・発信していく事こそが、この設問の本当の答えになると信じています。



環境活動を行うにあたって

弊社は、製造業ではなくモッタイナイを合言葉に電動機類の修理を行う会社です。3R+1RのRをRepair（修理する）と位置づけ、昨今の使い捨て文化から物を大切にする日本古来の考え方に立ち戻り、地域とともに環境負荷の低減につなげたいと考えます。

ただ、弊社は20名少々の非力な会社です。零細企業1社で出来る事には限りがあります。そこで横の連携を図り、環境というネットワークで業界の垣根を越えて、協働していこうと考えました。2013年8月から毎月発行している弊社独自の環境コラム3R瓦版です。このコラムは当初弊社内で執筆し、四コマ漫画をつけて発行していました。しかし弊社1社ではすぐに限界が来てしまう。また、1社だけでは独善的になってしまう。この問題を解消できたのは、今まで環境でつながった方々との交流でした。この10月でVer. 39を迎え、環境力大賞を受賞なさった方々をはじめ、30社以上の企業や団体にご執筆頂き、約350社に配布させて頂いています。



しかし弊社がもともと環境に対する意識が高かったのか？と問われると、まったく…。というほど、意識をしていませんでした。モータを修理することが環境に良いとも考えていませんでした。ただ、ひたすらモータを整備する・巻き替える・検査する・診断するという事業を営んでいただけでした。モータ自体使い古したもののため、非常に汚く従業員も真っ黒になって作業をしていました。只々一刻も早くお客様の元へお届けするために。

この様に私も含め、従業員一同、今まで環境を考えて仕事に向き合ってはいませんでした。が、転機となったのがKES環境マネジメント

システムStep2の取得です。京都独自の環境マネジメントシステムですが、ISO14001に準じるため、審査は厳しく、取引先にも説得力を持つことが出来ました。この取得審査に当たり、弊社の環境に対する考え方は如何なものなのか？位置づけは？振り返ってみると、電動機のリサイクルはもとより、鉄道事業に従事している事、使用不能なモータは選別し資源リサイクルを行っている事など、事業活動全体が環境活動である事を理解出来ました。これは、従業員にとっても仕事に自信が持てる内容でした。次に、環境活動とは？を考えてみました。電気使用量の抑制や、廃棄物の削減など基本的なことからはじめ、社会貢献活動（CSR）として小学校への出前授業やクリーン大作戦など美化活動への参加、森林活動への参加など活動の幅を拡げ、少しずつですが私を含めた従業員全員の意識が高まってきました。その5期目に頂いたのが環境力大賞でした。

今まで京都を中心に環境活動を行ってききましたが、環境力大賞を頂いた事により、弊社はどの様に変化し、更なる活動へ邁進出来るのか？これらを自問しながら、しぶとく事業活動＝環境活動を継続していく所存です。

